

第2章 課題解決に向けた取組の方向性

平野区地域保健福祉計画（第3期）の理念

すべての人と人がつながり、支えあうまち平野

平野区の地域保健福祉計画は、「平野区として地域での福祉をどのように考えどのように取り組んでいくか」を、区役所や区社協、住民のみなさんをはじめ、地域団体や専門支援機関、NPO、企業等、平野区に関わりのある方々が理念や目標、取り組んでいく方向性を共有し、具体的に実践していくために作成するものです。

平野区では、将来にわたって高齢化率が高い状態で推移することが予測され、福祉ニーズも多様化することが想定されます。今は支援が必要なくても今後支援の必要な状態にならないとは言いきれません（要支援予備群※）。そのような状態になった時に、地域住民のみなさんが、こどもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、多様なつながりの中において、であい・ふれあい・支えあうことや地域福祉の多様な担い手による連携・支援によって、住み慣れた地域で暮らし続けていけることが大切です。

第2期計画の推進のために、平成30年度から地域活動に携わる方や区内の関係機関の方と「平野区の地域福祉を考えるラウンドテーブル」を開催し、「地域福祉を考えるラウンドテーブルからの提言」をいただきました。この提言を受けて、第3期計画では平野区の地域福祉のまちづくりに取り組んでいく方向性と行動について、3つの基本目標を「つながり」「見守り」「人材・社会資源」にまとめています。平野区に関わる全ての人々が主人公として多様な福祉ニーズに対応するために、みなさんの心と力を合わせて、お互いがつながり、支える人（担い手）も支えられる人（受け手）もお互いを支えあう、みんなが共生する平野区をめざしていくために、次のように基本目標を設定します。

基本目標1（つながり）困ったときに支え助けあえる住民同士のつながりづくり

基本目標2（見守り）こどもから高齢者まで地域全体で見守り支えあう仕組みの充実

基本目標3（人材・社会資源）様々な取組の中でたくさんの人や関係団体が

連携・協力できる地域活動のネットワークづくり

基本目標 1（つながり）

困ったときに支え助けあえる住民同士のつながりづくり

地域福祉の推進に向けた個別の課題には、高齢者、障がい者、子育て等、人生の様々なステージにおける分野別に多くの課題が挙げられます。一方で、平野区における地域福祉の推進には、主人公である「平野区に関わっている全ての人」同士がつながり支えあっていくことが大変重要です。また、それぞれの課題は分野別ではなく全て関連しているものであり、行政や関係機関による制度間連携の強化とともに、様々な年代の住民同士が交流してつながり、日常的に顔の見える関係づくりを進めていくことが重要です。

しかし、近年の核家族化や少子高齢化の進行に加えて、ライフスタイルの多様化により、地域社会におけるつながりの希薄化が顕著になっています。子育て世帯や単身世帯等、地域での孤立を防ぐためにも、子育て関係機関や地域における居場所等を周知し、利用を促していく必要があります。

これまでの地域活動の取組を振り返りつつ、課題を解決していくために、区民のみなさん同士が困ったときに支えあえる共助の仕組みをつくりながら、つながりづくりを進めていく必要があります。近く発生するとされている南海トラフ地震、近年増加している台風やいわゆるゲリラ豪雨等による水害等に対しても、日頃の地域におけるつながりづくりを進めながら、安全で安心して暮らしていくことができるまちづくりが不可欠です。

<取組の方向性>

- ・ あいさつは、近隣のみなさん同士の相互認知やコミュニケーションの機会になる等、つながりづくりに大変有効であるため、広く区民のみなさんに呼びかけを進めます。
- ・ 高齢者の生きがいづくりや子育て世代の集える場所等、地域資源である学校施設や地域の集会施設、高齢者施設等、身近な場所で誰もが集える居場所づくりの支援を行います。
- ・ 地域のみなさんが主体的に行っている地域活動が今後も継続し発展していくよう支援し、ちょっとしたお手伝い（ボランティア）がしやすい仕組みづくりを支援します。
- ・ 地域で実施している防災訓練や避難訓練等への参加を呼びかけ、日頃の備えを促すとともに、災害時に地域のみなさん同士がお互いを助けあえる関係づくりを進めます。

<つながりの例> 日頃から隣近所の人にあいさつをする 近所付き合いをしている 回覧板を声かけして渡す など

基本目標 2（見守り）

こどもから高齢者まで地域全体で見守り支えあう仕組みの充実

福祉課題のある世帯や様々な支援を必要とする世帯が地域から孤立することなく、住んでいる地域で安心して暮らし続けられるためには、家族や隣近所での身近な人同士が緩やかな見守り等でお互いがつながる、「気にかける関係づくり」が重要です。まず、個人それぞれが生活習慣への意識向上や健康維持の取組等を意識することから始まります。そこに、地域におけるコミュニティ活動や地域福祉を担う多様な団体の連携・協働によるネットワーク強化等と重なりあうことによって、地域の力が隙間なく重層的なつながりとなっていきます。

地域には、高齢者だけでなく、障がいのある人、ひとりで家族の介護をしている人、生活に困窮している人等、様々な人が生活しています。様々なサービスの利用や地域での支えあいにより重層的な見守り体制の構築が期待できます。地域のみなさんの力で支え、早期に異変に気付き、命を守っていく仕組みでもあります。また、支援につながっていない世帯に早期に関わることで、関係機関や必要なサービスにもつながっていくことが期待でき、みなさんの安全と安心を確保することになります。

特に、南海トラフ地震については、30年以内に80%の確率で発生するとも言われており、早急な対応が必要です。災害発生時には障がいや介護等、サポートの必要な人（避難行動要支援者※）へ迅速に対応できるよう、平時から住民のみなさんも一緒に考えていただく必要があります。

<取組の方向性>

- ・ 隣近所における「気にかける」等の見守り活動の重要性をより広く周知し、緩やかな見守り活動が広まるよう取り組んでいきます。
- ・ 平時の見守り活動がより進むよう、要援護者名簿※の同意確認を継続して行います。また、災害時に支援の必要な人が迅速で適切に避難できるよう、地域と行政だけでなく、これまで以上に医療機関や介護事業所等の関係機関と連携を強化して取り組んでいきます。
- ・ 令和2年から拡大した新型コロナウイルス感染症だけに留まらず、今後起こり得る新たな感染症等にも適切に対応していくとともに、地域社会で誰一人孤立することがないよう、住民のみなさんとともに関係機関が見守りあう仕組みづくりを推進していきます。

<見守り活動の例> 民生委員・児童委員や地域のみなさんによる声かけ訪問 児童の登下校時の見守り など

基本目標 3（人材・社会資源）

様々な取組の中でたくさんの人や関係団体が 連携・協力できる地域活動のネットワークづくり

地域におけるネットワークづくりは、日常生活に直接関わってくるような活動や取組が大きい役割を担う重要な要素となっています。しかし、町会や自治会活動が地域コミュニティに重要な役割を担っていますが、近年活動に関わらない人や参加しない人が増加しており、活動を維持していくことが難しくなっている状況もあります。それに伴って、地域役員の後継者が現れず、地域活動の担い手の高齢化も著しい状況で、新たな担い手の発掘は急務と言えます。地域の安全、安心を維持していくためには、それぞれの分野ごとに活動している主体だけの活動では難しく、地域内の企業・NPO等の多様な主体との協働（マルチパートナーシップ※）の推進が必要になってきます。例えば、防災分野との連携、地域活動との連携、保健・医療分野との連携等、福祉の枠にとどまらない総合的なまちづくりをめざした取組を推進していく必要があります。

また、新たな活動者の育成も重要です。特に若い世代の地域活動への参画が乏しく、自分の地域で行われている活動も知らないことが多い状況です。概ね小学校区で行われている地域活動を広く周知していくとともに、住民のみなさんが自身の得意なこと、やりたいこと等、あらゆる世代が参加しやすい場面を創出していくことも必要です。みなさんが関心の高い地域活動に参加してもらうことで、新たな地域活動の人材の発掘にもつながります。

何よりも住んでいる地域でいつまでも自分らしく安心して暮らし続けるためには、医療機関と介護事業所の連携を推進し、医療や介護のサービスを一体的に提供できる体制作りが重要です。このような公的なフォーマルサービス※だけでなく、身近な地域で行われている介護予防事業や健康づくり等、地域のみなさんが行うインフォーマルサービス※の充実も重要です。

<取組の方向性>

- ・SNS等のツールを活用して、若い世代が地域活動に興味を持ち、参加できるよう取り組み、新たな担い手（ボランティア）の発掘・育成に取り組んでいきます。
- ・生活の困りごとや悩みがある時、住んでいる身近な場所に相談の機会があることを積極的に周知し、必要な支援につないでいける仕組みを構築していきます。
- ・それぞれの地域で行われている地域活動との協働・支援を積極的に行っていきます。

<地域活動への参加の例>	学校で行われる防災訓練に参加する	
	町会主催の夏祭りや清掃活動に参加する	など